

言葉の力～入学式を彩った言葉たち～

4月8日(火)に挙行了した入学式。式後、辻教頭先生が「いい式でした。すべてのあいさつに思いがこもっていました」とおっしゃいました。私も全く同感で、言葉の力を感じた入学式でした。抜粋、要約して紹介します。

誓いの言葉 新入生代表

中学校生活で大切にしていきたいと考えていることの一つ目は私が小学校生活で感じた「**その後が大切**」ということです。なぜなら、何があっても、その後努力しなければ意味がなくなってしまうと思うからです。この「**その後が大切**」ということを経験した中学校生活で意識することができれば、**苦戦することがあっても必ず成果が出る**と、私は信じています。

歓迎の言葉 在校生代表

長崎中学校の今の一番の魅力は、何といっても「**様々なことを自分で選択できる**ところ」です。例えば勉強について。教科によってテストの日が違うため、どの教科を、いつ、どのように勉強するか、自分で計画を立てる必要があります。長崎中学校ではフォーサイトというスケジュール帳を使って日々の過ごし方を計画したり、振り返ったりしています。計画を立てる中で「**する・しない**」の**判断を自分でする**からこそ、自分に合った勉強法を見つけることができます。

来賓祝辞 育成会会長

いよいよ今日から中学校生活がスタートします。ここに集う新入生お一人お一人が、**長崎中学校に関わるすべての人々の大きな希望**です。その希望に満ち溢れた皆さんが、中学校3年間、**限りなく健康**で、生き生きと充実した学校生活を送られますことを心から願います。

校長式辞「初心忘るべからず」とは？

現在では初心とは、何かを始めた頃の新鮮で真剣な気持ち、やる気といった「初志」に近い意味で用いられます。ところが、**初心とは本来、初心者としての初心、何かを始めてうまくいかなかった時の記憶、その時に味わった悔しさ、恥ずかしいという気持ち**で用いられた言葉なのです。中学校生活の「初心者」として、これから始まる中学校生活の中で、うまくいかない悔しさ、恥ずかしさという意味での「**初心を感じる**こと」こそが成長の鍵なのです。

多くの**初心に出会うため大切なこと**。それはさまざまなことへの「**挑戦**」を続けることです。なりたい自分になるために「**挑戦**」を続けてください。多くの「**初心**」を感じ、努力を重ね、成長することを期待しています。